

新潟エリアにおける地方創生



2024年8月21日

東日本旅客鉄道株式会社新潟支社

I. JR東日本について（新潟支社の概要）

2024年4月1日時点

■ 事業概要

社員：約2,500人

線区：12線区（新幹線2線区、在来線10線区）

距離：944.7km（新幹線168km 在来線776.7km）

駅数：195駅

● 輸送サービス

のってたのしい列車



越乃Shu*Kura



SLばんえつ物語



海里

上越新幹線・北陸新幹線



とき、たにがわ・はくたか

● 生活サービス（グループ事業）

商業施設

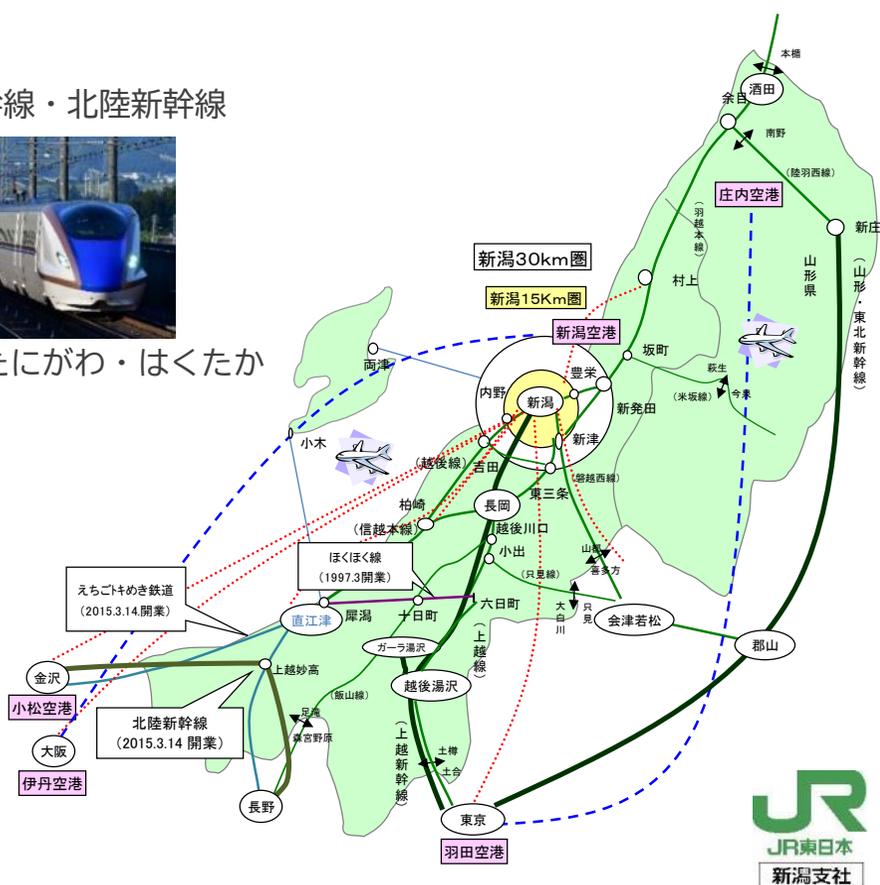
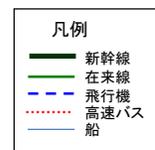


新潟駅ビル「CoCoLo新潟」

ホテル



ファミリーオ佐渡相川



I. JR東日本について（JR東日本グループの事業領域）

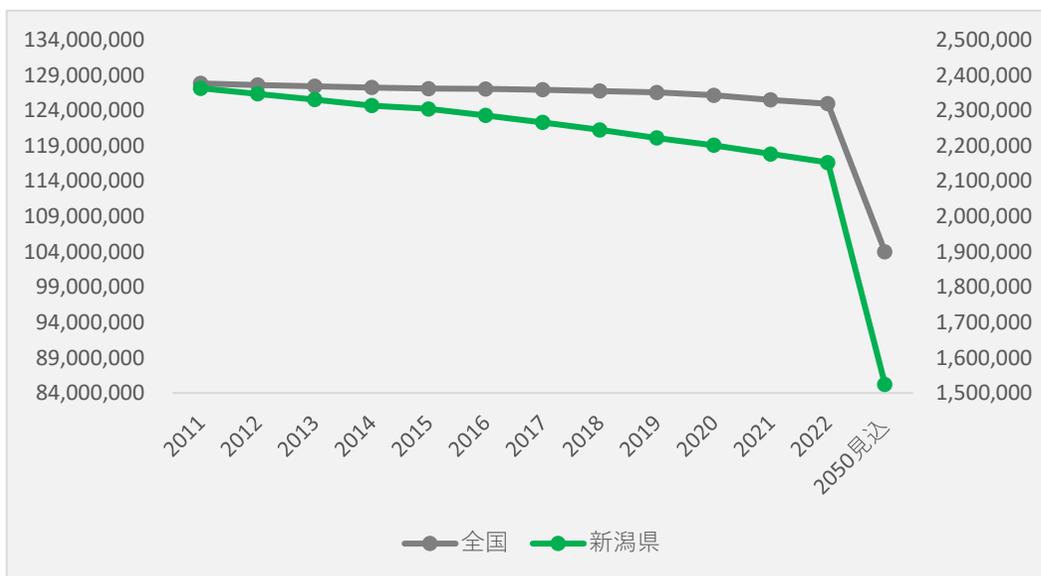


当社グループの強みは、「重層的でリアルなネットワーク」

Ⅱ. 当社を取り巻く環境（新潟県のトレンド）

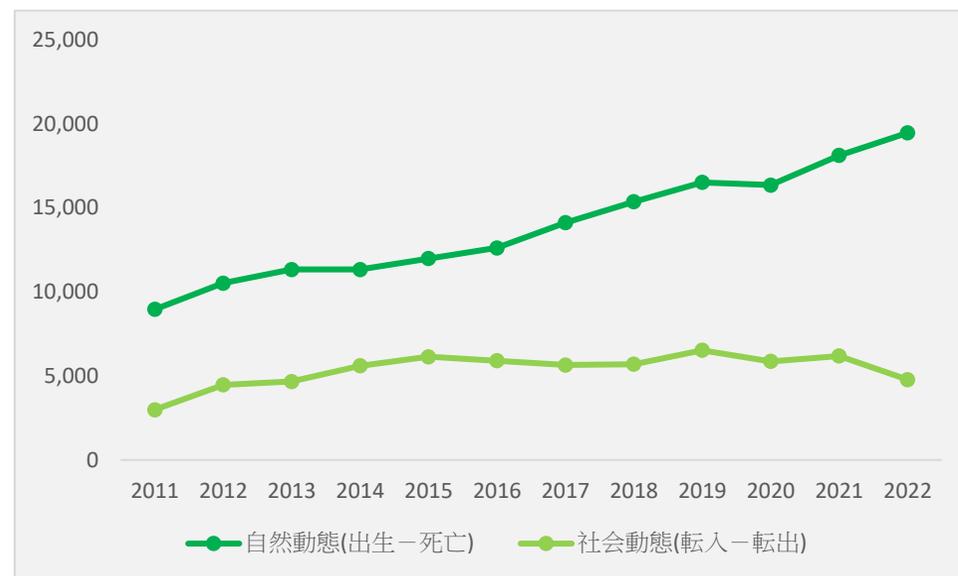
新潟県の人口減少は全国よりも早いペースで進行
少子高齢化により自然減加速、県外への転出超過は全国8番目の多さ

人口推移



総務省統計局人口推計・新潟県人口移動調査より

人口動態



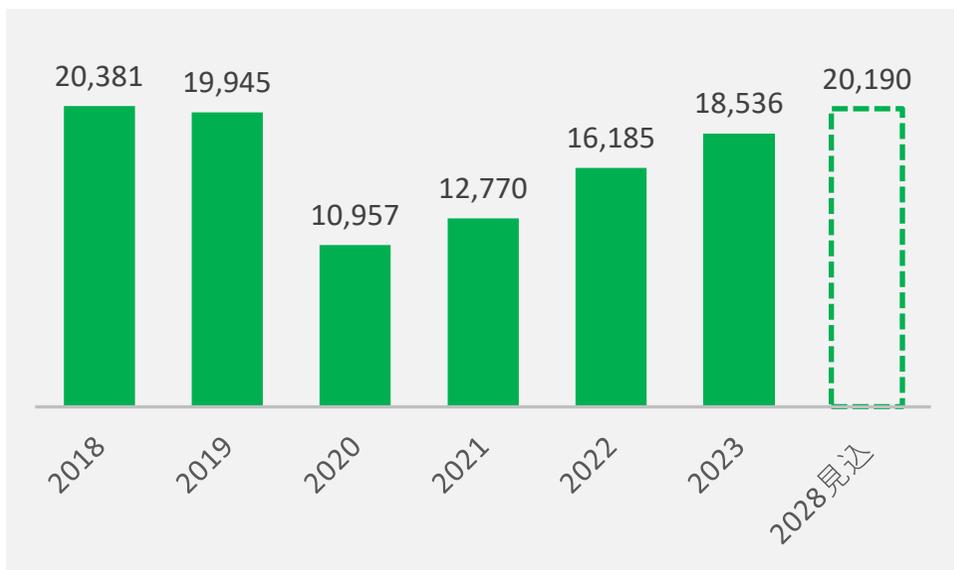
新潟県人口動態の推移より

事業の担い手不足、産業縮小、行政サービス縮小→人口減のスパイラル

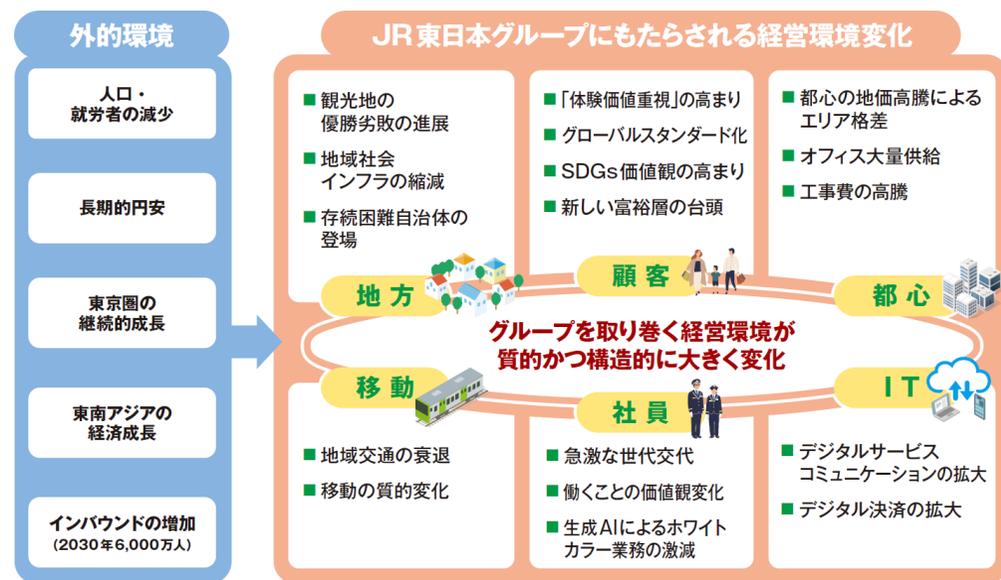
Ⅱ. 当社を取り巻く環境（鉄道事業のトレンド）

コロナ禍からは回復傾向、インバウンドも好調
だが、少子高齢化、ライフスタイル・働き方・消費行動の変化等により見通しは厳しい

運輸事業収入推移（億円）



当社を取り巻く環境

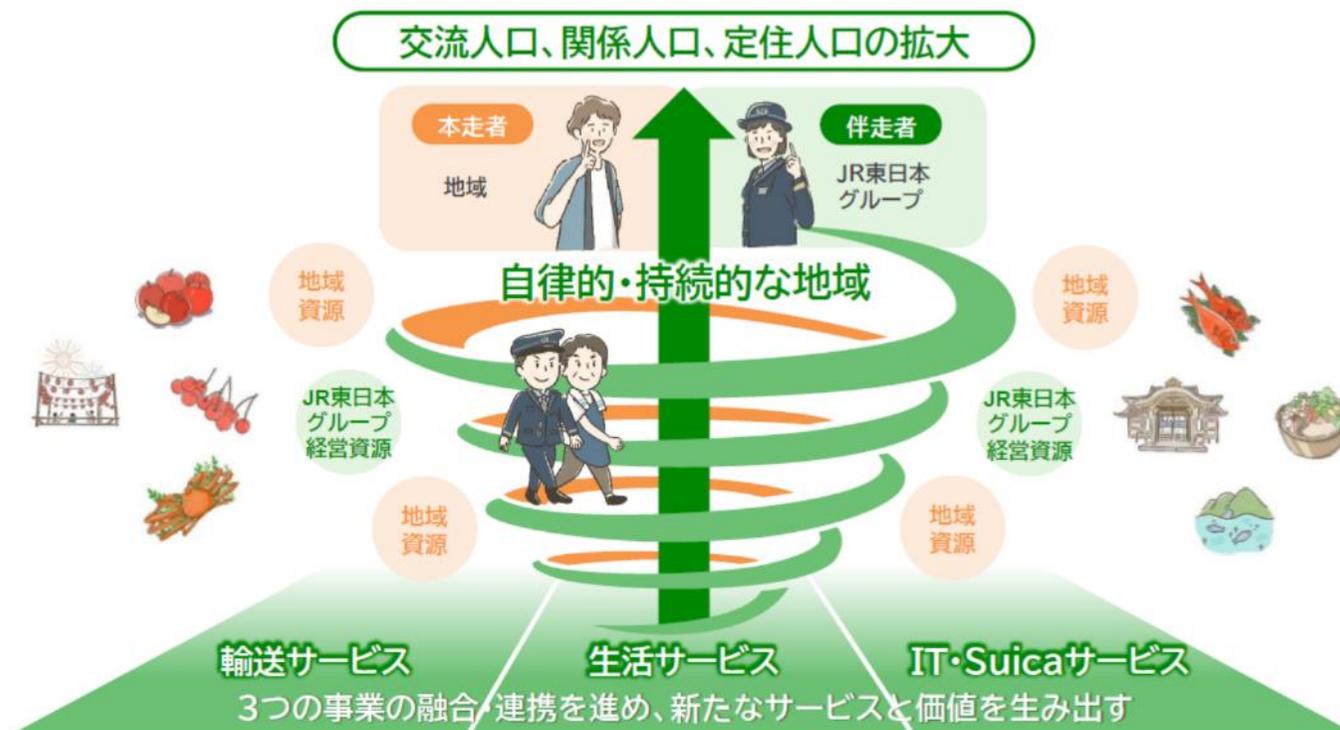


地方社会の縮退（高齢化、人口減、産業縮小）は地域交通の衰退に繋がる

Ⅲ. 新規事業に対する想い

「伴走型地域づくり」で地方を豊かに

JR東日本は1987年の会社発足以来、鉄道という社会インフラ企業として、安全性とサービス品質向上を実現し、鉄道のネットワーク拡充を進めてきました。地域モビリティを担い、地域に密着した事業を運営する当社グループにとって、活力ある地域社会はまさに事業運営の基盤です。地域が元気になるために、持続的に成長していくために、地域課題に対してJR東日本グループのアセット等を活用して地域をサポートする「伴走型地域づくり」を推進しています。新潟エリアにおける経済の活性化と、交流・関係・定住人口の拡大に向けて、グループがもつさまざまなソリューションと地域の魅力を掛け合わせ、皆さまとともに新たな価値を創造していきます。

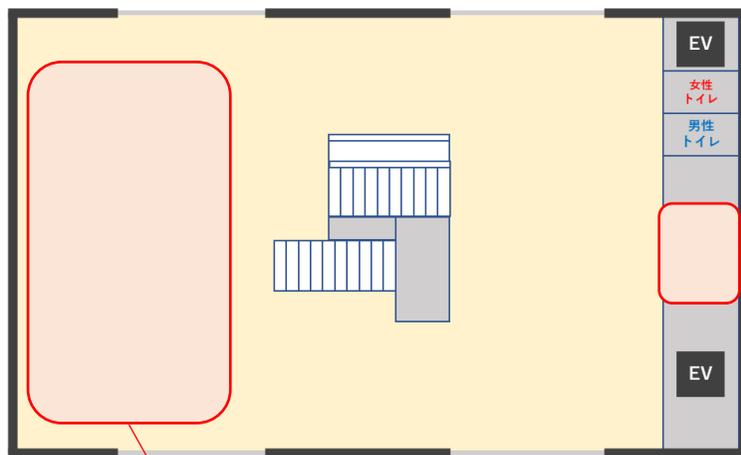


IV. 取り組み内容・解決したい課題

①地域の顔づくり（無人駅や駅スペースの活用を通じた来訪動機の創出）

- 課題：当社資産における空きスペースを利用できていない（資産の効率化）
- 具体的な内容：無人駅や新幹線駅（浦佐・燕三条）等のスペース利活用による地域の賑わい創出、地域コミュニティ拠点機能の創出
- ターゲット：地域に根付いた活動を行う飲食、製造、流通、サービス等の事業者
- 目標：駅の賑わい創出、事業者による地域活動の伴走
- スケジュール：2024年度に実証実験を行い、2025年度から常設店舗化
- 主な注意事項：スペースの貸し出しには、賃料・その他経費(敷金・水道光熱費等)がかかる。賃料は、駅・面積によって異なるため、個別算出。内容等によっては、実施が難しい可能性があるため、申込み後に個別打合せを行う。

例:燕三条駅1Fスペース



広大な
空きスペース

元飲食店舗



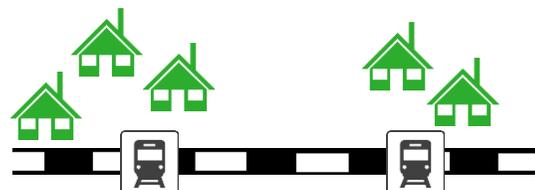
②人・モノの流動活性化（観光コンテンツの磨き上げによるの来訪動機の創出）

- 課題：鉄道利用に繋がる来訪の動機創りと沿線活性化
- 具体的な内容：新たな地域コンテンツの開発や既存コンテンツの活用による来訪動機創り
鉄道を活用した新たな移動需要の喚起
街の規模にマッチした駅からの移動手段の整備
- ターゲット：地域資源を活用したまちづくりや観光振興に取り組む事業者
レンタサイクルやその他の二次交通拡充をけん引する事業者
- 目標：地域の魅力向上による来訪者増、消費増、鉄道利用増
- スケジュール：2024年度：連携方法検討、2025年度：実証実験、連携事業開始

- イメージ：

沿線の資源×鉄道①

無人駅をフロント、空き家を客室として沿線全体を宿泊施設化



沿線の資源×鉄道②

アウトドアアクティビティと駅を活用したグランピング施設



二次交通の拡充

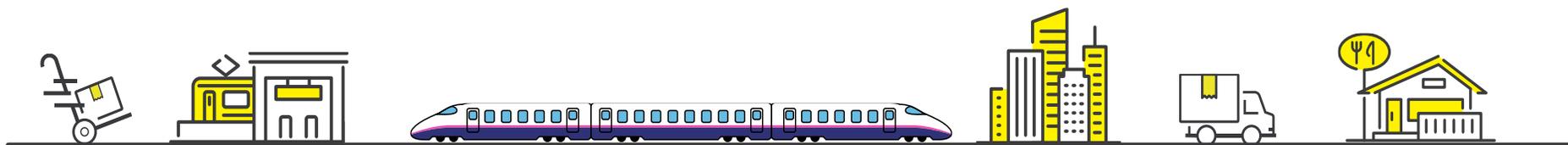
駅からの移動手段整備による地域の魅力UP、回遊性の向上



IV. 取り組み内容・解決したい課題

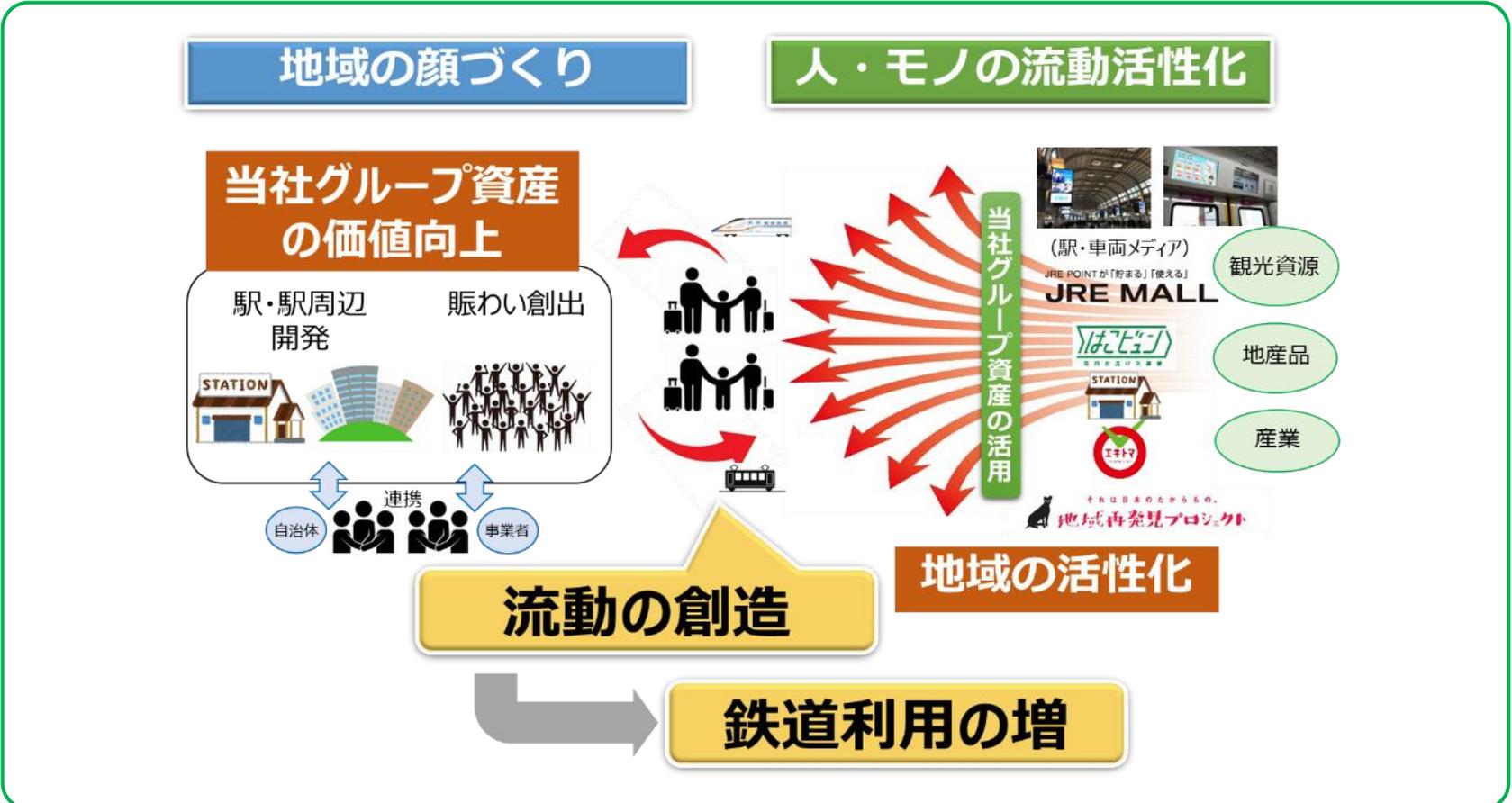
②人・モノの流動活性化（列車荷物輸送「はこビュン」等を活用した新潟エリアの魅力ある地域産品の流通促進）

- 課題：定期的に荷物を運ぶ荷主の開拓
- 具体的な内容：新潟⇒東京もしくは東京⇒新潟に新幹線で荷物を運ぶ荷主探し
※上越新幹線の途中駅積み込み、荷下ろしは応相談
- ターゲット：新鮮さ（食材、医療関連品等）や定時輸送に向けた商材を扱っている企業
物流2024年問題解決を目指す企業
- 目標：荷物輸送を通じた地域活性化
- スケジュール：2024年度に実証実験を行い、2025年度に定期輸送開始
- 輸送イメージ：



V. 目指す姿

「地域の顔づくり」の推進、「人・モノの流動活性化」による、「伴走型地域づくり」を通じた新潟エリアにおける関係人口の拡大、地域経済の活性化を目指す



地域と当社が共に発展する「Win-Win」の関係へ